

## 4年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「地域で受け継がれてきたもの」～過去・現在、そして未来へ～

2. 学校教育目標と社会科（本単元）で目指す子どもの姿

《省略》

3. 単元目標

県内の伝統や文化について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目し、見学・調査したい地図などの資料で調べたりしてまとめ、県内の年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解するとともに、主体的に学習問題を追究解決したり、学習したことを基に、地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちにできることを考えようとした態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組について見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、県内の文化財や年中行事の様子を理解している。  ②調べたことを年表などにまとめ、文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力、地域の人々の願いにより、文化財や年中行事が受け継ぎ保存されていることについて理解している。	①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して問いを見出し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現している。  ②文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、文化財や年中行事を受け継ぎ保存していることの意味を考えたり、地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりして表現している。	①県内の主な文化財や年中行事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。  ②学習したことを基に、地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちにできることを考えようとしている。

## 5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

### (1) 教材化 ～地域の年中行事につながる人々の願いや努力～

学区には、古くから地域の人々から大切にされているA神社の祭りがあります。毎年、この祭りを楽しみにして、参加する児童が多くいます。県内に目を向けると、同じように古くから大切にされている文化財や年中行事が多く残され、受け継がれています。今回は、県内の主な文化財や年中行事として、文化財として、歴史を伝える建造物「小田原城」、伝統行事として、地域の人々が楽しみにしている祭りや「平塚七夕まつり」を取り上げました。小田原城や平塚七夕まつりについて学習することを通して、地域に残る神社の祭りも地域の誇りとして人々に大切にされ、受け継がれていることを理解することにつながると考え、教材化しました。

### (2) 学習過程 ～人の願いや思いを実感する学習の充実～

単元の導入では、子どもたちが意欲的に学習に取り組むことができるように身近な地域で行われているA神社の祭りを取り上げ、県内に学習を広げていくようにしました。県内の事例では、はじめに平塚七夕まつりを取り上げ、歴史的な背景や人々の取組について学習を進めていくようにしました。そこで学習した視点を小田原城が守り続けられていることについて学ぶ時に生かせるようにしたいと考えました。単元の終わりには、再び自分の地域に目を向け、神社の祭りを今後どのように大切に守っていくのかを考え、自分が取り組むことについて選択・判断できるような単元の構成をしました。

### (3) 学習活動 ～資料から過去と今を考え、未来について考える～

人々の思いや歴史的な背景などを調査する際に、写真や年表などから正しく情報を読みとって、自分の言葉でまとめるようにしました。小田原城や平塚七夕まつりについては、昔と現在の市の地図や写真などの資料を一人一人が適切に活用できるような支援を考えて資料を作成しました。地図や写真などの資料を結び付けながら、情報を読み取ることや時間の経過に沿って年表を読み取ることが大切にして学習を進めました。神社の祭りについては、子どもたちの経験や体験を踏まえて、一人一人が自分の考えをもって話し合いを深めることにつなげるようにしていきました。

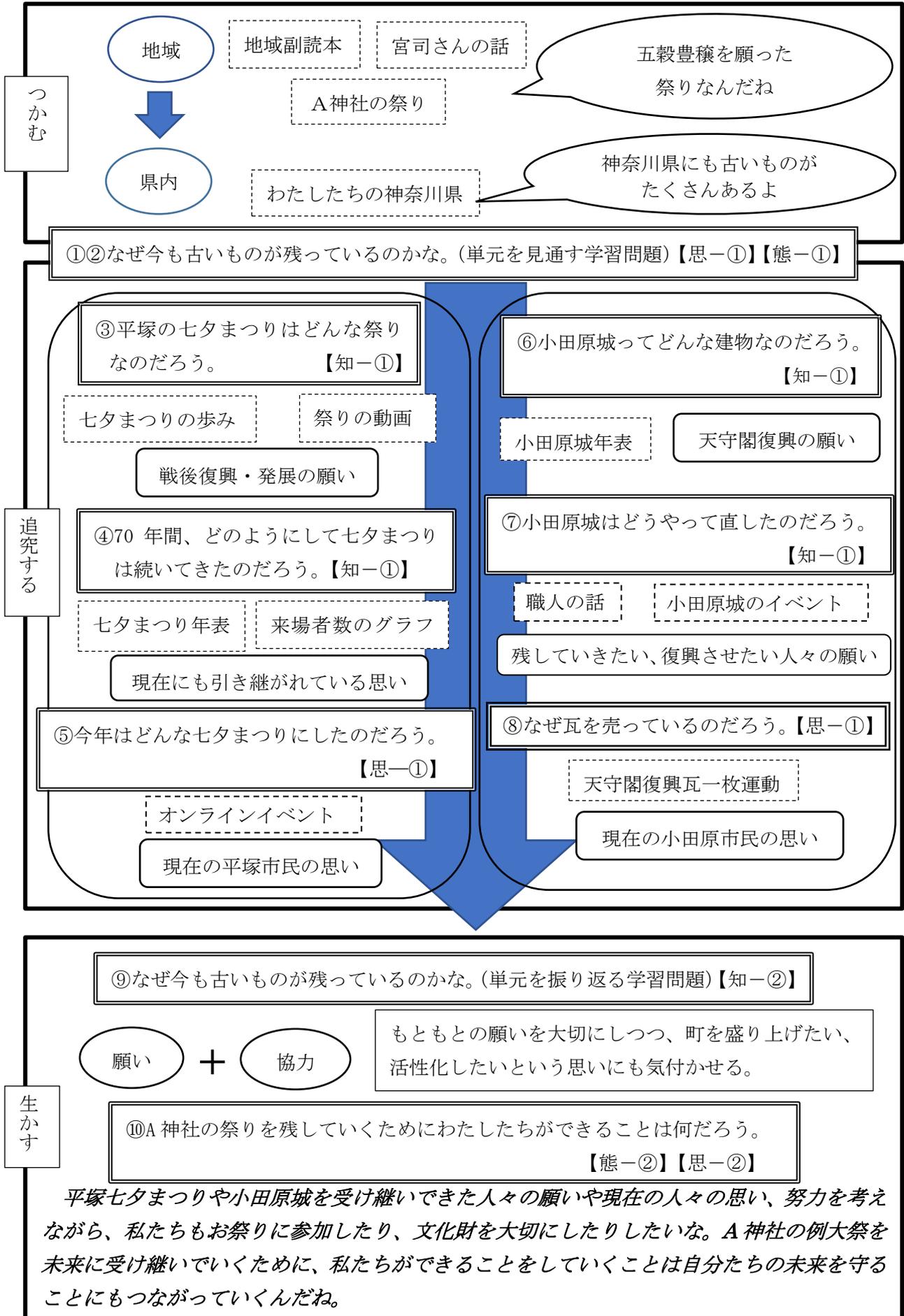
### (4) 指導と評価 ～根拠のある考えをもつための見取り～

これまでの学習でも、問題解決的な学習の流れを大切にして学習を進めてきました。子どもたちの実態に合わせて、話し合いがスムーズに進行するよう、子どもたちの意見を黒板に整理して、板書を生かして話し合えるようにしていきました。また、授業の鍵となるような資料を読み取る時間を大切にして問題解決の場面を作るようにしていきました。そこでは、資料の読み取り方やまとめ方で参考になる子どものノートを取り上げて、学級全体で共有できるようにしました。ノートのまとめや振り返りでは、コメントで問い返すなどして、考えを深めたり、意欲を高めたりすることができるようにしました。

### (5) 一人一人が生きる社会科学習 ～事実から考えにつなげる教師の問い返し～

資料を見せた時の驚きを生かして学習を進めていくことを大切にしていきました。一つ一つの資料に対する子どもたちの反応を生かして学習意欲を高めるようにしました。話し合い活動では、子どもたちの自由なつぶやきや発想、反応を生かして学習を進めました。また、個人で考える時間を十分に確保することで、一人一人の意見が生きるような話し合い活動にしていきました。その際には教師から問い返しを行い、根拠をもった話し合いにつなげていきました。加えて、友達と自由に相談をしたり、意見を交流したりする時間も大切にしました。

## 6. 問題解決的な学習の充実に迫る単元構想

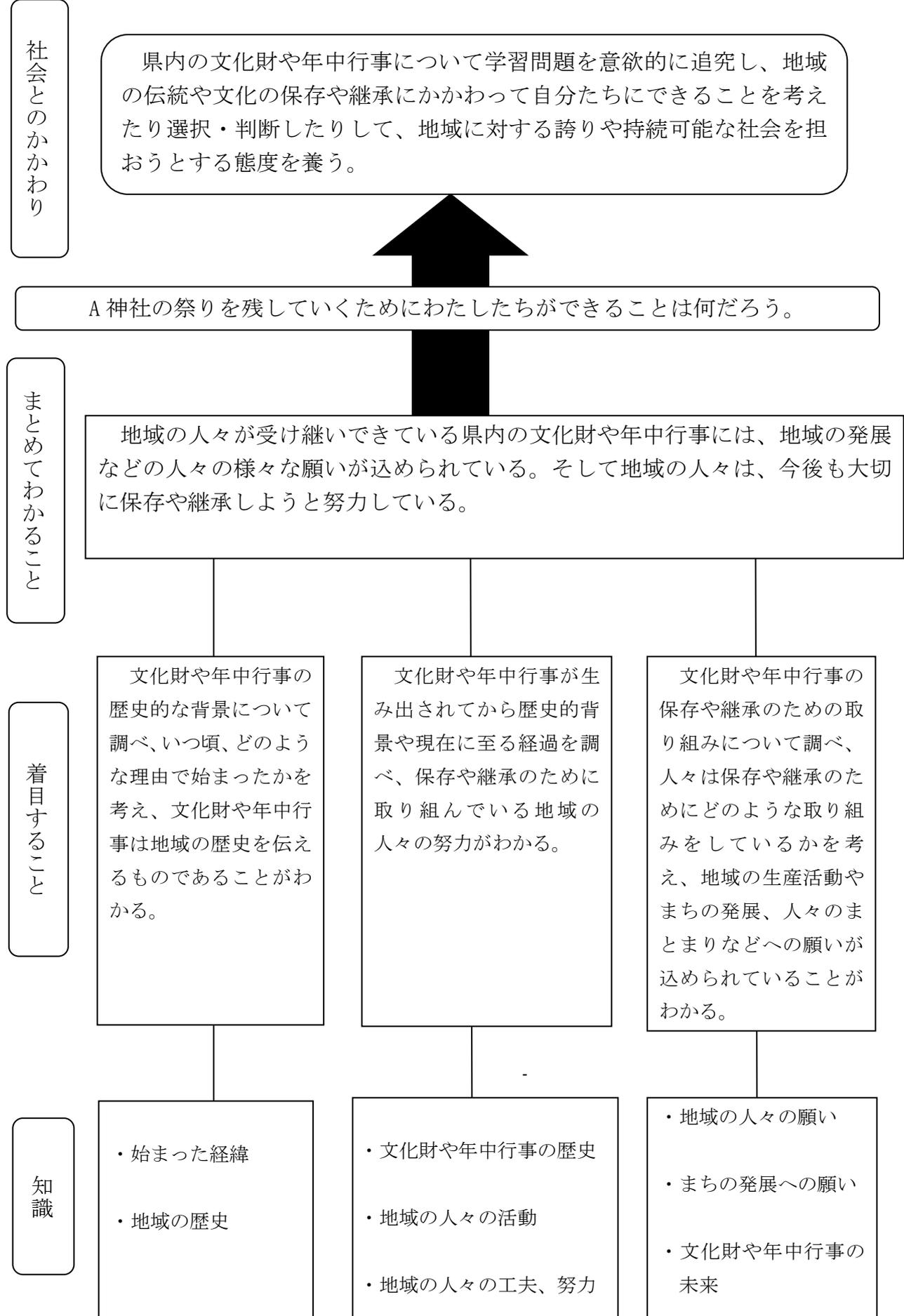


7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（10時間）※は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
①地域の年中行事について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承などに着目して学習問題をつくり出すことができるようにする。	○地域の年中行事のはじめた経緯や目的について話し合う。	◇神社の宮司さんの話  ◇副読本	発言内容やノートの記述から「学区の祭りの歴史的背景に着目して問いを見出しているか」を評価する。  【思-①】
②県内の年中行事や文化財について、学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立てて解決の見通しをもつことができるようにする。	○平塚の七夕まつりや小田原城の来場者数の変化や写真について話し合い、予想や学習計画を立てる。	◇来場者数のグラフ  ◇七夕まつり、小田原城の写真	発言内容やノートの記述から「七夕まつりや小田原城の様子からなぜ今も古いものが残っているかについて予想や学習計画を立て解決の見通しをもっているか」を評価する。【態-①】
③平塚七夕まつりの起源やまつりの様子について資料から調べたことをもとにして、平塚七夕まつりの様子を理解できるようにする。	○平塚七夕まつりがどのような祭りなのか写真やグラフなどの資料を読み取る。	◇七夕まつりの歩み 七夕まつりの動画	発言内容やノートの記述から「七夕まつりが戦後復興を目的に始まって、現在まで続いていることを理解しているか」を評価する。  【知-①】
④平塚七夕まつりの過去の取り組みについて年表から調べたことをもとにして様々な人の取り組みによって七夕まつりが続いてきたことを理解できるようにする。	○70年間の取組について年表の資料をもとに考える。  ○調べたことをもとにして学習問題の解決に向けて話し合う。	◇平塚の戦後から現代までの写真  ◇七夕まつり年表	発言内容やノートの記述から「七夕まつりが戦後70年続いてきた理由を理解しているか」を評価する。  【知-①】
⑤今年の七夕まつりの様子から、参加者の思いや努力について考えることができるようにする。	○平塚七夕まつりの現在までの70年間の取組をもとにして、様々な人がどんな思いや願いで続けてきたかを話し合う。	◇参加者の話  ◇オンライン 1000人パレード	発言内容やノートの記述から「人とのつながりや努力によって続いていることを考え表現しているか」を評価する。  【思-①】
⑥小田原城の歴史的背景や現在に至る経過について資料から調べたことをもとにして、小田原城の様子を理解できるようにする。	○小田原城がこれまでのような経緯で残ってきたのかを年表などの資料を使って調べ、様子を理解する。	◇小田原城年表	発言内容やノートの記述から「小田原城がどのような経緯で残ってきたのかを理解しているか」を評価する。  【知-①】

<p>⑦小田原城を再建する取組について資料から調べたことをもとにして、様々な人の取組によって再建されたことを理解できるようにする。</p>	<p>○小田原城がどのように再建されてきたのかを年表などの資料を使って調べ、様子を理解する。</p>	<p>◇小田原市役所の方の話</p>	<p>発言内容やノートの記述から「小田原城がどのように再建されてきたのかを理解しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【知－①】</p>
<p>⑧小田原城の再建に協力する人々の活動から、人々の小田原城に対する思いについて考えることができるようにする。</p>	<p>○小田原城を保存するための活動から、どのような住民の努力や思いで再建したのかを話し合う。</p>	<p>◇天守閣復興一枚瓦運動</p> <p>◇小田原城年表</p>	<p>発言内容やノートの記述から「人々の小田原城に対する思いや努力について考えているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【思－①】</p>
<p>⑨小田原城や平塚七夕まつりを保存したり、受け継いだりしている人々の工夫や努力、地域の人々の願いにより、小田原城や平塚七夕まつりが受け継ぎ保存されていることについて分かるようにする。</p>	<p>○なぜ今でも古いものが残っているのかについて、工夫や努力と地域の人々の願いを踏まえて学習してきたことを関連付ける。</p> <p>○なぜ今でも古いものが残っているのかについてまとめる。</p>	<p>◇これまでの資料</p>	<p>ノートの記述から「文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付け受け継ぎ保存していることの意味を考え表現しているか」を評価する。 【思－②】</p> <p>発言内容やノートの記述から「小田原城や平塚七夕まつりを保存したり、受け継いだりしている人々の工夫や努力、地域の人々の願いによって受け継がれていることを理解しているか」を評価する。 【知－②】</p>
<p>⑩学習したことをもとに、A神社の祭りを保存したり受け継いだりするために、自分たちができることや協力できることを考えるようにする。</p>	<p>○なぜ学区には田んぼがないのに、現在もお祭りが続いているのかをもとにして、自分たちができることや協力できることについて話し合う。</p> <p>○自分たちに協力できることについて考えをノートにまとめる。</p>	<p>◇副読本</p>	<p>ノートの記述から「A神社の祭りを保護したり、継承したりするために自分たちにできのことを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。 【思－②】</p> <p>ノートの記述から「単元の学習を振り返り、自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価する。 【態－②】</p>

資料. 「社会のしくみ」と「社会のかかわり」をつなぐ理解の構造図



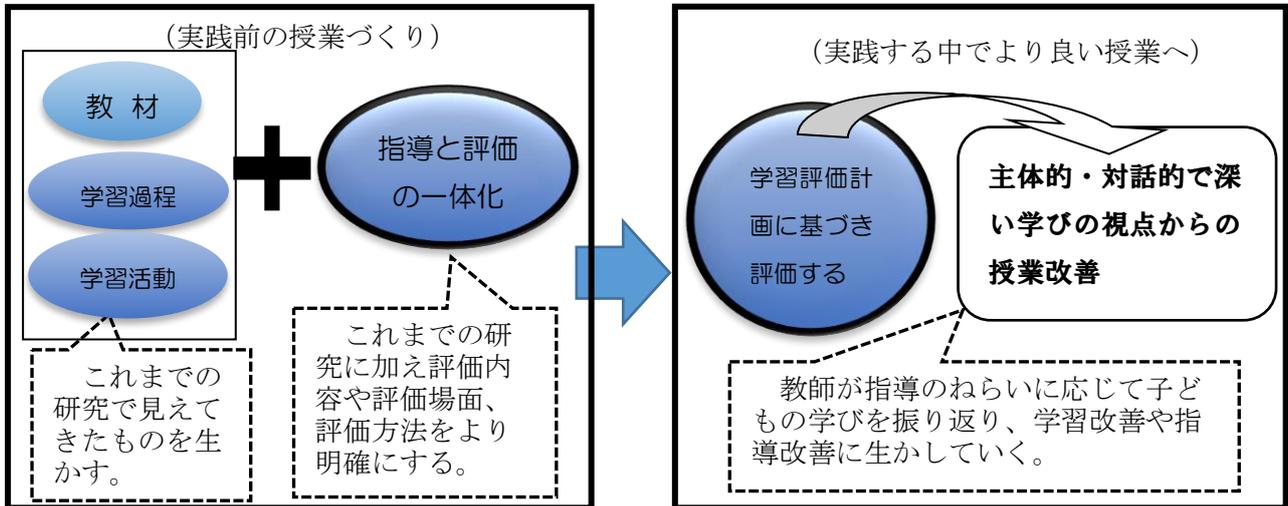
ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

◆ 4年部会研究の重点

川崎の目指す子どもの姿に迫るための

公民としての資質・能力の基礎の育成に向けた指導と評価の在り方

◆ 研究の重点に向けての学年の取り組み



◆ 単元における目指す子どもの姿と育成を目指す資質・能力

平塚の七夕祭りの継承や小田原城の保存には、それらに携わる人々の願いが込められていることを理解し、継承や保存をしている理由やそこに至るまでの取り組みなどに関連付けて考えることで人々の願いや努力を表現できる子

令和2年度実践単元「地域で受け継がれてきたもの」における目指す子どもの姿

めざす子どもの姿に迫るために育成を目指す資質・能力

(知識・技能)

- ・ 地図や写真などの資料を結び付けながら情報を読み取ることができる。
- ・ 調べたことを時間の経過に沿って年表などに整理することができる。
- ・ 県内の様々な場所で文化財や年中行事が受け継がれていることやそれらは地域の歴史を伝えるものであることを理解できる。
- ・ 保存や継承に取り組んでいる人々の努力や地域の生産活動やまちの発展、人々のまとまりなどへの願いを理解できる。

(思考・判断・表現)

- ・ 文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付け、その意味を考えることができる。
- ・ 考えたことを文章で記述したり、年表などにまとめたことを基に説明したりすることができる。
- ・ 自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりすることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・ 課題や問題の解決に向けて意欲的に調べたり、粘り強く考えたり、学んだことを社会生活にいかそうとしたりすることができる。